



# イルカ通信

隔月 1 回発行  
バックナンバーは無料でダウンロードできます  
(下記参照)

2012年12月1日 NO.51

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

## 「イルカのモニタリング調査」

貴重な自然環境が多く残されている小笠原。自然環境保護のため、行政が定めた法令の他、各団体が自主ルールなどを定めています。「村民だより」でも何度かお伝えしている通り、ドルフィンスイム・ウォッチングにも自主ルールが存在します。これはイルカの生息環境を保全し、ツアー参加者の安全を確保するため、小笠原村観光協会ガイド部がOWAのアドバイスの元、2005年に制定したものです。自主ルールの内容は次の通りです。

- ①ひとつの群れにアプローチできる船は、船の大小を問わず4隻までとする。(ウォッチングのみの場合も隻数に含まれる。)
  - ②2隻以上の船がひとつの群れにバッティングした場合は、水中へのエントリー回数を1隻につき5回以下とする。
- ※ただし、必ずしも5回OKというものではなく、そのときのイルカの状況や他船への配慮を考えること。

このルールの遵守状況を把握するために、OWAでは今年の8月にモニタリング調査を実施しました。その結果、自主ルールはおおむね守られており、1隻あたりのドルフィンスイムの実施時間は、平均で15分ほどになることが分かりました。また調査中、1つの群れに対して、4時間ほど船が付いていたこともありました。

各船がルールを守っていたとしても、イルカの群れに次々と船がつくことがありますので、その時間を合計すると相当なものになることが分かります。

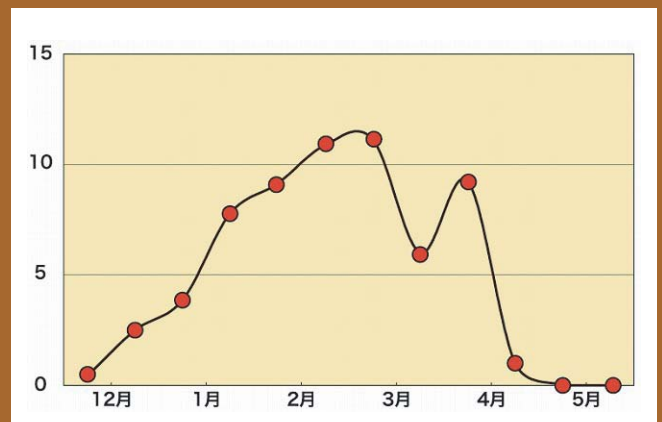
各船毎ではルールの範囲内ではあっても、その時のイルカの状況に配慮したウォッチング・スイムの方法や、ツアー参加者の安全面の向上についての、さらなる工夫が必要であると感じました。今後も調査を実施して、イルカルールの見直しなどを提案していきますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。



調査中に会ったイルカの群れ

## 「今年もザトウクジラがやってきました」

小笠原のホエールウォッチングの主役であるザトウクジラ。シーズン最初の発見は、一昨年が11月21日、昨年が11月10日でした。そして今シーズン最初の発見は11月16日に兄島瀬戸の東側で、2頭のザトウクジラを発見したとの情報をいただきました。ザトウクジラの始まりです。



ザトウクジラの平均発見頭数 (頭)  
(2011.12.1~2012.5.31までの観測結果)

上のグラフは、昨シーズンに実施した定点観測でのザトウクジラの平均発見頭数を半月ごとに示したものです。昨シーズンのザトウクジラの来遊状況は例年通り、2月から3月にかけて、ピークを迎える傾向となりました。まだまだザトウクジラの本格的なシーズンではありませんが、OWAでは毎年12月1日から5月31日まで、定点観測をウェザーステーションにて行います(荒天時や海況不良のときは中止)。

これからホエールウォッチングのシーズンとなりますがOWAでは次のような自主ルールに基づくホエールウォッチングを奨励しています。ホエールウォッチングを楽しまれる際は、いつまでも自然なクジラの姿を観察できるように、ご協力をお願いいたします。

